2026.4.1

分野	基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	科学的思考の基盤	単位数	1 単位	新原　仁美
科目名	情報科学Ⅱ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であることから、情報処理能力を高めるために、Microsoft Office ソフトウェアの操作を身に付ける。また、報告(レポート)、データ計算、プレゼンテーション等、現場での実践的スキルを身につける。

授業目標

1　Microsoft Word の操作を学ぶ。
2　Microsoft Excel の操作を学ぶ。
3　Microsoft PowerPoint の操作を学ぶ。

DPとの関連		
		1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	ガイダンス / 環境設定 ・学習管理システムにログインし、授業内容を把握できる。	演習	PC ﾙｰﾑ使用
2～5	Word と PowerPoint の操作 ・Word と PowerPoint を操作し、発表資料を作成できる。	演習	PC ﾙｰﾑ使用
6～12	Excel の操作 ・Excel を操作し、情報処理に必要な関数を使用できる。	演習	PC ﾙｰﾑ使用
13～15	プレゼンテーション演習 ・作成した発表資料を使ったプレゼンテーションができる。	演習	PC ﾙｰﾑ使用

受講上の注意

本科目は積み上げ型の内容であり、欠席すると理解が追い付かなくなるため、毎回の出席を求める。
もし欠席した場合は、授業スライドを熟読して自主学習し、授業の進度に追い付いておくこと。

評価方法

小テスト 60%、課題 40%

使用するテキスト

特になし

参考文献

特になし

分野	基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	科学的思考の基盤	単位数	1 単位	栫　大也
科目名	ロジカル&クリティカルシンキング	時間数	20 時間　10 回	

科目概要

看護における問題解決と意思決定を強化するため、ロジカルシンキング（論理的思考）とクリティカルシンキング（批判的思考）の基本を学ぶ。事実を評価し、論理的な結論を導き、効果的な意思決定を行う技術と科学的思考を身につける。

授業目標

1　論理的思考とは何か、なぜ論理的思考が必要かを説明できる。
2　帰納的論証について説明し、トゥールミンの検証モデルについて述べることができる。
3　論証の 3 つタイプを説明し、図式化することができる。
4　パラグラフの構造を理解し、一文一義で文章を書くことができる。

DPとの関連		
		1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	論理的思考の基本 ・ロジカルシンキングとクリティカルシンキングの定義 ・学ぶ意義　　・論理・論証とは何か ・論理的思考の必要性 ・クリティカルシンキングの心構え	講義	
2	論理的思考と論証方法 ・演繹法、帰納的論証法とは ・演繹法と帰納的論証法の違い ・トゥールミン論証モデル	講義	
3	論証を図で示す① ・論証図とは　　・論証図の意義 ・論証図のタイプと示し方（単純論証、結合論証、合流論証） ・論証図から見えること	講義	
4	論証を図で示す② ・論証図を書いてみる	演習	
5	論理的に書く① ・一文一義で書くということ、効果 ・パラグラフを構成する文書の種類 （トピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンス）	講義	
6	論理的に書く② ・論証した内容をパラグラフ構造で表現する	演習	
7	論理的に読む① ・論理的に読むということ ・必要な 4 つのステップと 5 つのポイント	講義	

8	論理的に読む② ・文章を読んでみる	講義	
9	クリティカルシンキング訓練法① ・トライアンギュレーション　・幽体離脱法 ・ロールモデル法　・憑依法 ・フィッシュボーン	講義	
10	クリティカルシンキング訓練法② ・フィッシュボーンを使用する	演習	

受講上の注意

本科目は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。
課題で使用したレポートを自己分析したりするため、他科目のレポートも保管しておくこと。

評価方法

筆記試験 70%　　レポート 30%

使用するテキスト

「看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル」，福澤一吉 著，医学書院，2023 年

参考文献

「3 分でわかるクリティカルシンキングの基本」，小川進 著，日本実業出版社，2009 年
「グロービス MBA クリティカルシンキング」，グロービス 著，ダイヤモンド社
「たのしく学ぶクリティカルシンキング」，野地有子 著，廣川書店

分野	基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	杉山　つぐみ
科目名	人間関係論	時間数	15 時間　8 回	

科目概要

対人関係の構築と維持に必要なスキルと理論を学習する。コミュニケーション、コーチング、対人衝突の解決などを学び、多職種協働の基盤を形成する。

授業目標

1　効果的にコミュニケーションをとり、対人関係が円滑にできる。
2　チームで協力し合い、共同で目標を達成できる。
3　対人関係の問題を適切に解決できるスキルを習得することができる。
4　感情をコントロールし、ストレスを適切に管理することができる。
5　看護実践における対人関係の重要性を理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人間関係概説 ・人間関係の定義とその重要性　　・良好な人間関係の要素 ・人間関係の基本概念 ・家族、友人、職場などの関係の違い	講義・GW	
2	人間関係とパーソナリティ ・自己理解と他者理解 (1) 自己認識と自己開示の重要性 (2) 他者理解のための視点 (3) パーソナリティの影響、自己分析	講義・PW	
3	コミュニケーション① ・コミュニケーションの基本	講義	
4	コミュニケーション② ・ノンバーバルコミュニケーション	講義・GW	
5	対人関係① ・対人関係のスキル	講義・PW	
6	対人関係② ・グループダイナミックス	講義・GW	
7	人間関係の維持と改善① ・人間関係の維持と改善	講義・演習	
8	人間関係の維持と改善② ・保健医療チームの人間関係　　・患者・家族との人間関係	講義	

受講上の注意

本講義では、グループワークや演習、協同学習等を取り入れて行うため、積極的に発言をして、自己の学びとすること。
グループワーク等への参加状況は評価の対象とする。

評価方法

筆記テスト 70%　　演習等への貢献度 10%　　レポート等 20%

使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」，石川ひなの 著，医学書院，2026 年
参考文献
「人間関係づくりトレーニング」，星野欣生 著，金子書房，2002 年

分野	基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	人間と生活・社会の理解	単位数	1 単位	渡邉　美奈子
科目名	コミュニケーション論	時間数	15 時間　8 回	

科目概要

コミュニケーションは日常的で看護にとっては欠くことができないものである。本講義では、コミュニケーションを俯瞰的な視点から見直し、総合的に理解できる力をつける。さらに、対象者を全人的に理解するための基盤とする。

授業目標

1　コミュニケーションに関連する基礎的な知識と技術を学習し、他者との関係を創る基礎的な態度を身につける。
2　自己のコミュニケーションを振り返り、プロセスレコードを記載できる。
3　アサーティブネスを理解し、アサーティブ行動が実践できる。
4　看護職におけるコミュニケーションの重要性を理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	コミュニケーションの基本① ・自己と他者の理解	講義	
2	コミュニケーションの基本② ・コミュニケーション技法	講義	
3	プロセスレコード① ・プロセスレコードとは　　・プロセスレコードの意義	講義	
4	プロセスレコード② ・プロセスレコードの記載方法、評価、活用	講義	
5	アサーティブ行動① ・アサーティブネスとは	講義	
6	アサーティブ行動② ・アサーティブ行動の実践	演習	
7	コミュニケーションスキルの向上① ・看護におけるコミュニケーション	演習	
8	コミュニケーションスキルの向上② ・コミュニケーション障害がある人への対応	講義	

受講上の注意

共通看護技術で学んだ内容を復習し講義に臨むこと。
コミュニケーションでは演習等を実施するため、積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 60%　　レポート・課題 40%

使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ」，茂野香おる 著，医学書院，2026 年 教員が編集する資料を使用する。
参考文献
「はじめての看護実習　基礎からステップアップ看護コミュニケーション」， 高橋　清美　編著，へるす出版，2021 年 「自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード」，長谷川　正美 著，第３版，日総研，2019 年 「これならわかる！精神科の看護ケア」，木戸　房史・三井　督子 著，ナツメ社，2024 年 「アンガーマネジメント基礎研修」，佐藤　慶子・山村　容子 著， アンガーマネジメントジャパン，2022 年

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	能間　国光
科目名	病理学Ⅱ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

病理学Ⅰで学んだ病理の基礎的知識をもとに、系統別の主たる疾患について病態と症状のメカニズムについて理解できる。

授業目標

1　循環器系疾患の病態、症状を説明できる。
2　血液・造血器系疾患の病態、症状を説明できる。
3　呼吸器系疾患の病態、症状を説明できる。
4　消化器系疾患の病態、症状を説明できる。
5　腎泌尿器系疾患の病態、症状を説明できる。
6　脳神経・筋肉系疾患の病態、症状を説明できる。
7　骨・関節系の疾患の病態、症状を説明できる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	循環器系疾患の病態と症状のメカニズム ・動脈硬化症　・大動脈解離　・先天性心疾患 ・心不全　・心肥大　・虚血性心疾患 ・血圧調節の病理	講義	
2	血液・造血器系疾患の病態と症状のメカニズム ・貧血　・白血球増加症と減少症　・白血病 ・出血性疾患　・悪性リンパ腫	講義	
3	呼吸器系疾患の病態と症状のメカニズム ・肺炎　・閉塞性肺疾患　・肺の循環障害 ・肺がん　・胸膜と縦隔の疾患	講義	
4～5	消化器系疾患の病態と症状のメカニズム ・食道の疾患（食道炎、食道静脈瘤、食道がん） ・胃の疾患（胃炎、胃潰瘍、胃がん） ・腸・腹膜の疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸ポリープ、大腸がん、腸閉塞とイレウス） ・肝臓・胆道系の疾患（急性肝炎と慢性肝炎、脂肪性肝疾患、肝硬変、肝がん、胆石症）	講義	
6	腎泌尿器・生殖器系疾患の病態と症状のメカニズム ・糸球体腎炎　・ネフローゼ症候群 ・腎盂腎炎　・腎不全　・腎がん ・男性生殖器の疾患　・女性生殖器の疾患	講義	
7	内分泌系疾患の病態と症状のメカニズム ・下垂体疾患　・甲状腺の疾患 ・副甲状腺の疾患　・副腎の疾患　・膵臓の疾患	講義	

8	脳・神経・筋肉系疾患の病態と症状のメカニズム ・脳・神経系の循環障害と外傷 ・脳・神経系の感染症　・変性疾患 ・脱髄疾患　・脳腫瘍　・末梢神経疾患	講義	
9	骨・関節系の疾患の病態 ・骨折の分類　・骨髄炎　・骨粗鬆症 ・関節炎　・椎間板ヘルニア　・骨肉腫	講義	

受講上の注意

予習、復習を行い、解剖生理学・生化学で学んだ知識と統合して理解する。

評価方法

筆記試験 100%

使用するテキスト

「系統看護学講座 病理学 第6版」，大橋健一・他 著，医学書院，2026年

参考文献

「わかりやすい病理学 第7版」，恒吉正澄・他，南江堂，2022年

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	菊地　将和
科目名	薬理学Ⅰ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

薬物の薬理作用と人体への作用・副作用を理解し、薬物療法時の治療効果の観察や副作用を早期に発見し、安全に対応できるための基礎知識を理解する。

授業目標

1　薬物が作用する仕組みと体内動態の基礎について理解する。
2　薬物の作用・副作用とそれに影響を与える要因を理解する。
3　薬物療法における看護師の役割について理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	薬物治療と看護 ・薬物とは　　・薬理学とは ・チームによる薬物使用と看護師の役割	講義	
2	薬理学の基礎知識① ・薬が作用する仕組み(受容体、イオンチャンネル、トランスポーター)	講義	
3	薬理学の基礎知識② 薬の体内動態(薬物の体内経路、薬物の吸収、分布、代謝、排泄、薬物相互作用)	講義	
4	薬理学の基礎知識③ ・小児、妊婦、高齢者の薬物療法 ・薬物使用の有益性と危険性 ・薬に関する法令	講義	
5	抗感染症薬 ・抗感染症薬の作用機序　　・抗感染症薬選択のポイント ・抗菌薬　　・抗真菌薬　　・抗ウイルス薬 ・消毒液	講義	
6	抗がん薬 ・抗がん作用のしくみ ・抗がん薬の種類 (1) 細胞傷害性抗がん薬　　(2) 分子標的薬	講義	
7	免疫治療薬 ・自然免疫系と獲得免疫系 ・免疫抑制薬 (1) 特異的免疫抑制薬　　(2) 非特異的免疫抑制薬 ・免疫増強薬　　・予防接種薬　　・抗毒素	講義	

8	抗アレルギー、抗炎症薬 ・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ・抗炎症薬 (1) ステロイド性抗炎症薬　(2) 副腎皮質ステロイド薬 (3) 非ステロイド性抗炎症薬 ・関節リウマチ治療薬 ・痛風・高尿酸血症治療薬	講義	
9	輸液製剤・輸血剤 ・輸液製剤とは ・輸血剤の種類と使用方法	講義	

受講上の注意
解剖生理学、生化学、病理学等で学習した内容を復習して授業に臨むこと。 終了後は必ず巻末のワークを解き、理解度の確認をすること。
評価方法
筆記テスト 100%
使用するテキスト
「系統看護学講座 薬理学」，吉岡充弘 著，医学書院，2026 年
参考文献
「薬がみえる（vol. 1、2、3、４）」，医療情報科学研究所編集，メディックメディア，2021 年 「New 薬理学」，田中千賀子 著，南江堂，2017 年 「今日の治療薬 2025　解説と便覧」，伊豆津宏二ほか，南江堂

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	菊地　将和
科目名	薬理学Ⅱ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、薬の投与から投与後の経過観察までの一連の過程における薬の適正使用に関する考え方を教授する。
実際の看護に求められる薬の知識と薬の投与時の注意事項を理解する。

授業目標

1　各疾患における治療薬の種類と使用方法、作用・副作用について理解する。
2　薬を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	末梢での神経活動に作用する薬物 ・神経系による情報伝達と薬物 ・交感神経作用薬　・副交感神経作用薬 ・筋弛緩薬、局所麻酔	講義	
2	中枢神経に作用する薬物① ・中枢神経系のはたらきと薬物 ・全身麻酔 ・麻薬性鎮痛薬　・片頭痛治療薬	講義	
3	中枢神経に作用する薬物② ・抗不安薬　・抗精神薬 ・抗うつ薬、気分安定薬 ・パーキンソン　・抗てんかん	講義	
4	皮膚外用薬、眼科用薬、漢方薬 ・皮膚に使用する薬物　・眼科用薬 ・漢方医学の基礎知識　・漢方薬各論　・漢方薬の有害作用	講義	
5	循環器系・血液疾患の薬物療法① ・降圧薬　・心不全治療薬 ・抗不整脈薬　・利尿薬	講義	
6	循環器系・血液疾患の薬物療法② ・脂質異常症治療薬 ・血液凝固系に作用する薬物 ・血液に作用する薬物	講義	
7	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 ・呼吸器系に作用する薬物 ・消化器系に作用する薬物 ・生殖器、泌尿器系に作用する薬物	講義	
8	物質代謝に作用する薬物 ・糖尿病治療薬 ・ホルモン製剤　・ビタミン	講義	

9	救急の際に使用される薬物 ・救急に用いられる薬剤 ・急性中毒に対する薬剤	講義	

受講上の注意

解剖生理学、生化学、病理学、疾病治療学等で学習した内容を復習して授業に臨むこと。
終了後は必ず巻末のワークを解き、理解度の確認をすること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト

「系統看護学講座 臨床薬理学」，吉岡充弘 著，医学書院，2026 年

参考文献

「薬がみえる（vol.1、2、3、４）」，医療情報科学研究所編集，メディックメディア，2021 年
「New 薬理学」，田中千賀子 著，南江堂，2017 年
「今日の治療薬 2025　解説と便覧」，伊豆津宏二ほか，南江堂，2025 年

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	伊藤　重彦
科目名	疾病治療学Ⅰ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

疾病の成り立ちと主要な治療方法を学び、対象理解を深める。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。

授業目標

1　消化器、内分泌、皮膚疾患の病態生理を理解する。
2　消化器、内分泌、皮膚の健康障害と診断、治療法を理解する。
3　外科的治療の基本について理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	消化器疾患の病態・症状・診断・治療① ・消化器疾患検査 (1) 食道内圧測定検査　(2) 肝機能検査と膵外分泌検査 (3) 超音波検査　(4) 内視鏡検査　(5) 肝生検 (6) 画像検査（CT,MRI,シンチグラフィー）	講義	
2	消化器疾患の病態・症状・診断・治療② ・病態生理、診断、治療 (1) 上部消化管疾患（潰瘍性疾患、腫瘍、食道静脈瘤）	講義	
3	消化器疾患の病態・症状・診断・治療③ (2) 下部消化管疾患（炎症性疾患、腸閉塞・イレウス、腫瘍、食道静脈瘤）	講義	
4	消化器疾患の病態・症状・診断・治療④ (3) 肝・胆・膵疾患（炎症性疾患、肝硬変・肝不全・腫瘍） ・消化器の外科的治療	講義	
5	内分泌の疾患の病態・症状・診断・治療① ・内分泌疾患検査 (1) ホルモンの血中濃度　(2) 画像検査 (3) 糖尿病の診断 (4) 脂質異常症の診断 ・病態生理、診断、治療 (1) 視床下部―下垂体後葉系疾患（中枢性尿崩症）	講義	
6	内分泌の疾患の病態・症状・診断・治療② (2) 甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺炎） (3) 副腎疾患（原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫） (4) 膵・消化管神経内分泌腫瘍 (5) 代謝疾患（メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症）	講義	
7	外科的治療の基本① ・手術侵襲と生体反応　・麻酔法	講義	
8	外科的治療の基本② ・カテーテル治療　・ステント治療　・バイパス術	講義	

9	皮膚疾患の病態・症状・診断・治療	講義	

受講上の注意

解剖生理学、病理学での学びを復習して、参加すること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学5 消化器 第16版」，南川雅子・他 著，医学書院，2026年
「系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝 第16版」，吉岡成人・他 著，医学書院，2026年「系統看護学講座 臨床外科看護各論 第10版」，北川雄光・江川幸二・他 編，医学書院，2026年
「系統看護学講座 臨床外科看護総論 第12版」，池上徹・高橋則子・他 編，医学書院，2026年
「系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 第16版」，渡辺晉一・他 著，医学書院，202年

参考文献

なし

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	長友大輔（循環器） 伊藤重彦（呼吸器、血液・造血器、アレルギー疾患）
科目名	疾病治療学Ⅱ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

疾病の成り立ちと主要な治療方法を学び、対象理解を深める。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。

授業目標

1　循環器、呼吸器、血液・造血器、アレルギー疾患の基本的な病態を理解する。
2　循環器、呼吸器、血液・造血器、アレルギー疾患による健康障害と診断、治療法を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	循環器系疾患の病態・症状・診断・治療① ・循環器疾患の検査	講義	
2	循環器系疾患の病態・症状・診断・治療② ・循環器疾患の治療・処置	講義	
3	循環器系疾患の病態・症状・診断・治療③ ・代表的な循環器疾患の病態生理、診断、治療	講義	
4	呼吸器系疾患の病態・症状・診断・治療① ・呼吸器疾患の検査	講義	
5	呼吸器系疾患の病態・症状・診断・治療② ・呼吸器疾患の治療・処置	講義	
6	呼吸器系疾患の病態・症状・診断・治療③ ・代表的疾患の病態生理、診断、治療	講義	
7	血液系疾患の病態・症状・診断・治療 ・血液疾患の検査、治療、処置 ・代表的疾患の病態、診断、治療	講義	
8	アレルギー性疾患・膠原病の病態・症状・診断・治療① ・アレルギー疾患の検査、病態、診断、治療	講義	
9	アレルギー性疾患・膠原病の病態・症状・診断・治療② ・膠原病の検査、病態、診断、治療	講義	

受講上の注意

解剖生理学・病理学の復習をして授業に参加すること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト
「系統看護学講座 成人看護学3 循環器 第16版」，吉田俊子・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 第16版」，川村雅文・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 第16版」，飯野京子・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 第16版」 岩田健太郎・他 著，医学書院，2026年
参考文献
なし

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	宮城知也（脳・神経疾患） 大川孝浩（運動器） 野入英世（腎泌尿器） 坂本照夫（感覚器疾患）
科目名	疾病治療学Ⅲ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

疾病の成り立ちと主要な治療方法を学び、対象理解を深める。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。

授業目標

1　脳・神経、運動器、腎・泌尿器、眼疾患の基本的な病態生理を理解する。
2　脳・神経、運動器、腎・泌尿器、眼疾患の健康障害と診断、治療法を理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	脳・神経疾患の病態・症状・診断・治療① ・脳・神経疾患検査 (1) 神経学的診察　(2) 画像診断 (3) 脳波検査　(4) 脳脊髄液検査 ・脳・神経疾患治療・処置 (1) 薬物療法　(2) 穿頭術、開頭術　(3) 放射線治療	講義	
2	脳・神経疾患の病態・症状・診断・治療② ・脳・神経疾患病態生理、診断、治療 (1) 脳血管障害　(2) 脳腫瘍　(3) 頭痛 (4) 脊髄疾患　(5) 末梢神経障害	講義	
3	脳・神経疾患の病態・症状・診断・治療③ (6) 筋疾患（筋ジストロフィー） (7) 脱髄疾患（多発性硬化症、パーキンソン病） (8) てんかん　(9) 認知症	講義	
4	運動機能系の疾患の病態・症状・診断・治療① ・運動器疾患の検査 (1) 画像検査　(2) 電気生理学的検査　(3) 関節鏡検査 ・運動器疾患の治療・処置 (1) 理学療法、作業療法　(2) 手術療法 (3) 義肢と装具	講義	
5	運動機能系の疾患の病態・症状・診断・治療② ・運動器疾患の病態生理・診断・治療 (1) 骨折、脱臼、年座位　(2) 骨・関節の炎症 (3) 腫瘍	講義	
6	運動機能系の疾患の病態・症状・診断・治療③ (4) 変形性関節症　(5) 脊髄の疾患 (6) 腱の疾患　(7) 上肢および上肢帯の疾患	講義	

7	腎・泌尿器系の疾患の病態・症状・診断・治療① ・腎・泌尿器疾患の検査 (1) 尿検査　(2) クレアチニンクリアランス (3) 画像検査　(4) 内視鏡検査 ・腎・泌尿器疾患の治療・処置 (1) 間欠導尿　(2) 血液透析と腹膜透析　(3) 腎移植	講義	
8	腎・泌尿器系の疾患の病態・症状・診断・治療② ・腎・泌尿器疾患の病態生理、診断、治療 (1) 腎不全　(2) ネフローゼ症候群　(3) 糸球体腎炎 (4) 高尿酸血症　(5) アミロイド腎症	講義	
9	眼疾患の病態・症状・診断・治療 ・眼疾患の検査 (1) 視力検査、屈折検査　(2) 細隙灯顕微鏡検査 (3) 眼底検査　(4) 視野検査　(5) 色覚検査 ・眼疾患の病態生理・診断、治療 (1) 眼瞼疾患　(2) 結膜疾患　(3) ブドウ膜疾患	講義	

受講上の注意

解剖生理学、病理学での学びを復習して参加すること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経 第 16 版」, 井手隆文・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 10 運動器 第 16 版」, 田中栄・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 8 腎・泌尿器 第 16 版」, 大東貴志・他 著, 医学書院, 2026 年
「系統看護学講座 成人看護学 13 眼 第 15 版」, 大鹿哲郎・他 著, 医学書院, 2026 年

参考文献

なし

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	1 単位	金　長壽（精神疾患） 濱本　邦洋（小児科疾患） 福田　睦美（女性生殖器）
科目名	疾病治療学Ⅳ	時間数	18 時間　9 回	

科目概要

成長発達に関わる疾病の成り立ちと主要な治療方法を学び、対象理解を深める。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。

授業目標

1　精神障害、小児・女性生殖器疾患の基本的な病態生理を理解する。
2　精神障害、小児・女性生殖器疾患による健康障害と診断、治療法を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神障害の病態・症状・治療① ・統合失調症　・気分障害　・ストレス関連障害	講義	
2	精神障害の病態・症状・治療② ・精神作用物質使用による行動障害　・心的不調	講義	
3	精神障害の病態・症状・治療③ ・精神科で行われる治療	講義	
4	小児疾患の病態・症状・診断・治療① ・呼吸器疾患　・消化器疾患	講義	
5	小児疾患の病態・症状・診断・治療② ・循環器疾患	講義	
6	小児疾患の病態・症状・診断・治療③ ・腎疾患	講義	
7	小児疾患の病態・症状・診断・治療④ ・代謝内分泌疾患　・悪性新生物	講義	
8	女性生殖器疾患の病態・症状・診断・治療① ・女性生殖器における検査治療、腫瘍	講義	
9	女性生殖器疾患の病態・症状・診断・治療② ・月経異常、乳腺疾患、STI	講義	

受講上の注意

解剖生理学、病理学での学びを復習して講義に参加すること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト
「系統看護学講座 小児看護学1 小児臨床看護総論 第15版」，奈良間美保・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 第15版」，奈良間美保・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 第6版」，武井麻子・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開 第6版」，武井麻子・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 第16版」，末岡浩・他 著，医学書院，2026年
参考文献
なし

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	1 単位	柳井　圭子
科目名	関係法規Ⅱ	時間数	15 時間　8 回	

科目概要

看護職として正しく職務を遂行するための根拠や判断基準として習得すると共に、実際の看護を行う上で健康の回復、保持・増進に関する法律として関係法規Ⅱでは、保健衛生法、福祉法、労働法について学び基本的知識を養う。

授業目標

1　健康の回復、保持・増進に関する保健衛生法が理解できる。
2　人々の生活を支援する福祉について理解できる。
3　労働者の健康を守る労働条件や職場の安全性についての法律が理解できる。
4　生活環境を保全する法律が理解できる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	保健衛生法① ・地域保健法と健康増進法　・精神保健	講義	
2	保健衛生法② ・母子保健と学校保健　・母体保護	講義	
3	保健衛生法③ ・個別の疾病対策　・感染症に関する法令 ・食品に関する法令	講義	
4	福祉法① ・福祉の基盤　・児童分野	講義	
5	福祉法② ・高齢分野　・障害分野　・手当	講義	
6	労働法と社会基盤整備① ・労働法	講義	
7	労働法と社会基盤整備② ・社会基盤整備	講義	
8	環境法 ・環境衛生の法令　・公害防止法令 ・自然保護の法令	講義	

受講上の注意

事前に教科書や講義資料に目を通し、自ら学ぶ姿勢をもち積極的な参加を求める。

評価方法

筆記テスト 80%　　課題（提出状況・内容）20%

使用するテキスト
「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4　看護関係法令 第 58 版」， 森山幹夫 著，医学書院，2026 年
参考文献
「看護六法」，看護行政研究所 編 「国民衛生の動向」，一般財団法人 厚生労働統計協会

分野	専門基礎分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	健康支援と社会保障制度	単位数	1 単位	下田　希美
科目名	地域包括ケアシステム論Ⅰ	時間数	15 時間　8 回	犬丸　小百合

科目概要

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）のあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムを理解した上で看護師が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。

授業目標

1　地域包括ケアシステムの概念について理解できる。
2　多様な課題を抱え地域で暮らすあらゆる人々へのサービス提供システムについて理解できる。
3　地域包括ケアシステムにおける多職種連携について説明することができる。
4　地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について説明することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	地域包括ケアシステム成立の背景と概要①	講義	
2	地域包括ケアシステム成立の背景と概要②	講義	
3	暮らしを支える介護保険制度①	講義	
4	暮らしを支える介護保険制度②	講義	
5	地域包括ケアシステムを支えるサービスと提供システム①	講義	
6	地域包括ケアシステムを支えるサービスと提供システム②	講義	
7	地域包括ケアシステムにおける多職種連携①	講義	
8	地域包括ケアシステムにおける多職種連携②	講義	

受講上の注意

評価方法

筆記テスト 80%　　平常点 20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第7版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026年

「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生」,
神馬征峰・他 著, 医学書院, 2026年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	池田　千鶴
科目名	日常生活援助技術Ⅰ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

人間にとっての衣生活や、身体を清潔に保ち、身だしなみを整える意義を理解する。対象者の自立度や身体状況をアセスメントし、その人らしく日常生活を送るために必要な整容や清潔援助の基礎的な知識と技術を学ぶ。

授業目標

1　人間にとって身だしなみや清潔という行為の意義を理解し、対象者がその人らしく生活するための援助の基本を理解する。
2　皮膚や粘膜の構造やしくみ、衣服の役割など、身体の清潔保持に必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3　対象者の安全・安楽・自立・個別性に留意し、根拠に基づいた身だしなみを整えるための基本的な援助技術を実践する。

DPとの関連		
	○	1. 多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2. 対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
	○	3. 医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
		4. 医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5. ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	主題・授業内容	方法	講師・備考
1	なぜ人は身だしなみを整えるのだろう ・人間にとっての「清潔」の意義 ・皮膚・粘膜の構造と機能 ・清潔援助の効果 ・患者の状態に応じた援助の決定と留意点	個人ワーク 講義　GW 小テスト	
2	身だしなみが整うとは ・身だしなみが整っている人、整っていない人 ・身だしなみの目的と方法 ・生活の質：QOL と整容の関連性 ・整容：洗面（目・耳・鼻）・爪切り・髭剃り	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
3	入浴・シャワー浴 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
4	全身清拭 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
5	衣生活と寝衣交換 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・全身清拭・寝衣交換の演習計画立案	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
6～7	全身清拭・寝衣交換 ・臥床患者の全身清拭・寝衣交換の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	

8	洗髪 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・洗髪の演習計画立案	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
9	洗髪 ・ケリーパッドを用いた洗髪の実際 ・洗髪車、手作りケリーパッドを用いた洗髪の実際 ・座位・臥床での洗髪の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	
10	整容、睡眠・休息の援助 ・整容の援助：洗面（目・耳・鼻）・爪切り・髭剃り ・口腔ケア ・睡眠援助の基礎知識と援助の実際	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
11	部分浴（手浴、足浴） ・手浴、足浴の目的と効果 ・手浴、足浴の援助の方法 ・手浴、足浴の演習計画立案	個人ワーク 講義　DVD GW　小テスト	
12	部分浴（手浴、足浴） ①臥床患者の手浴、足浴の実際 ②目的に応じた手浴、足浴の実際 ・演習計画に基づき演習を実施する	演習	
13～14	清潔援助の実際 事例に応じた清潔援助を計画、実施	演習	
15	清潔アセスメント 事例に基づいた援助方法の検討	討議	

受講上の注意：別表参照

【講義準備】
必ず事前学習（個人ワークシートを配布）をして講義に参加する。
教科書のQRコードの画像については事前に視聴しておく。
講義終了時に小テストを実施、評価対象とする。

【演習について】
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始5分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする。
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 50%　　演習記録 30%　　態度 10%　　小テスト 10%

使用するテキスト
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第19版」，茂野香おる・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第19版」，任和子・他 著，医学書院，2026年
参考文献
「看護技術がみえる① 基礎看護技術」， 医療情報科学研究所 編集，メディックメディア，2016年 「看護技術プラクティス 第4版」，竹尾恵子監修，GAKKEN

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	清成　万里子
科目名	日常生活援助技術Ⅱ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

「食事」と「排泄」は私たちの生命を維持するために欠かせない生活行動である。これらの生活行動の意義を考え、生活者の個別性を重視した援助についてグループで創意工夫しながら学習する。また、科学的根拠を踏まえ、各領域で行う援助の基本となる援助技術について学習する。

授業目標

1　看護の対象である人間にとって、よりよい食事とは何かを学ぶことができる
2　対象者の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント方法を理解することができる
3　排泄のメカニズムを理解し、排泄アセスメント方法を理解することができる
4　患者の自立度に応じて、安全・安楽に配慮した食事摂取・排泄行動に必要な援助方法を考えることができる
5　対象者に必要な食事摂取・排泄行動の基本的援助技術が実施できる

DPとの関連		
	○	1. 多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2. 対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
	○	3. 医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
		4. 医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5. ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	健康と食事について ・食事の意義　・消化・吸収の器官と役割 ・栄養状態のアセスメント（SGA、ODA） ・摂食、嚥下のアセスメント	講義	基礎Ⅱ 第2章 A B
2	食事援助の基本 ・医療施設で提供される食事　・誤嚥について ・食事援助の基本　・食事と口腔ケア	講義 GW	
3	食事と口腔ケア ・食事の援助の実際　・摂食嚥下訓練の実際 ・口腔ケアの方法	演習	
4	経口摂取できる人への食事援助技術 ・食事介助の実際　・嚥下食　・とろみ剤の使用	演習	
5	経口摂取が困難な人への栄養摂取方法 ・非経口的栄養摂取の援助と看護	講義	基礎Ⅱ 第2章 C D
6	経口摂取が困難な人への食事援助技術 ・経鼻経管栄養　・胃ろう ・経腸栄養　・中心静脈栄養	演習	
7	食欲不振のある対象者への援助 ・栄養アセスメントの実際 ・事例に基づいた援助方法の検討	講義 GW	
8	健康と排泄 ・排泄の基礎知識　・排泄のアセスメント ・自然排泄を促す援助　・尿器・便器の使用方法	講義	基礎Ⅱ 第3章 A

9	排泄を促す看護技術 ・排泄援助の基本　　・陰部洗浄 ・排泄の援助における看護師の役割	講義	基礎Ⅱ 第3章 A
10	自然な排泄を促す援助方法① ・車いすでのトイレ介助 ・ベッドサイドでの排泄(ポータブルトイレ)	演習	
11	自然な排泄を促す援助方法② ・床上排泄　　・オムツ交換　　・陰部洗浄	演習	
12	排泄機能障害と看護 ・排泄機能障害の基本　　・排泄機能障害と看護 ・ストマについて	講義	基礎Ⅱ 第3章 B C
13	自然な排尿が困難な人への援助 ・導尿　　・尿道膀胱留置カテーテル	演習	
14	自然な排便が困難な人への援助 ・摘便　　・浣腸　　・陰部洗浄	演習	
15	食事・排泄アセスメント ・事例に基づいた援助方法の検討	講義 GW	

受講上の注意

・必ず事前学習をして授業に参加する。
・教科書のQRコードの画像については事前に視聴しておく。
・演習に関する講義に欠席した場合は、原則演習に参加できない。
・講義に欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談に行く。
・演習時は、身だしなみチェック表に沿って、身だしなみを整える。
・演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。
・授業開始5分前までに手洗いをすませておく。
・演習室内での飲食は禁止とし、指示された物品以外は持ち込まない。
・演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。
・演習を欠席した場合は、翌登校日に担当教員に相談し、時間外で自己学習を行う。

評価方法

筆記テスト 60%　講義態度 10%　演習態度・演習記録 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第19版」，茂野香おる・他 著，医学書院，2026年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第19版」，任和子・他 著，医学書院，2026年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	池田　千鶴
科目名	フィジカルアセスメント技術	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

系統別フィジカルイグザミネーションの技術を学び、看護実践を選択し決定する際の思考である臨床判断「気づき」を得ることにより臨床判断能力を身につけるための基礎とする。

授業目標

1　看護記録の概要を説明できる。
2　系統別フィジカルアセスメントの概要を説明できる。
3　系統別フィジカルアセスメントを通して対象の重要な反応を見つけ、今の状態を把握し意味づけることができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護記録 ・観察の意義　・看護記録とは ・記載・管理における留意点　・看護記録の構成	講義	
2	神経系のフィジカルアセスメント① ・神経系の自覚症状の問診　・運動機能の評価 ・感覚機能の評価　・腱反射と表在反射 ・情報からわかること	講義	
3	腹部のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
4	外皮系・乳房・腋窩のフィジカルアセスメント① ・外皮系のアセスメント ・乳房・腋窩のアセスメント	講義	
5	頭部・感覚器のフィジカルアセスメント① ・自覚症状の問診　・頭頸部のアセスメント ・眼のアセスメント　・鼻のアセスメント ・耳のアセスメント　・頸部・甲状腺の視診・触診	講義	
6	筋骨格系のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診　・関節可動域 ・徒手筋力テスト　・ADL 評価 ・情報からわかること	講義	
7～8	頭部・感覚器のフィジカルアセスメント②	演習	
9	腹部のフィジカルアセスメント② 神経系のフィジカルアセスメント②	演習	
10～11	筋骨格系のフィジカルアセスメント②	演習	

12	呼吸器のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
13	循環器のフィジカルアセスメント① ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・情報からわかること	講義	
14～15	呼吸器のフィジカルアセスメント② 循環器のフィジカルアセスメント②	演習	

受講上の注意

【講義準備】
講義資料は前週までに配布するため、必ず事前学習をして講義に参加する。
教科書の QR コードの画像については事前に視聴しておく。
演習手順を確認し、援助が実施できるようイメージしておく。

【演習について】
演習は、白衣、ナースシューズ、白の靴下を着用する。
髪は肩にかからないように整える。長い場合は、一つに結びネットでまとめる。
爪は短く切り、清潔に整える。
実習室には、指示された物品のみ持ち込む。
授業開始 5 分前までに手洗いをすませておく。

【演習の進め方】
準備・片づけはグループで協力してすすめる。
患者役・看護師役・観察者役を体験できるようにする
演習室内での飲食は禁止する。
廃棄物は学校の指示どおりに行う。
演習終了後は清掃を行い、終了後は担当教員へ報告する。

【その他】
講義を受けていない場合は演習に参加できない。
演習記録は評価の対象とするため、必ず提出する。
技術の状況によっては演習時間が延長する場合があるため、予定を入れないようにしておく。

評価方法

筆記テスト 50%　演習記録 20%　ロールプレイ評価 20%　演習参加態度 10%

使用するテキスト

「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版」，茂野香おる・他 著，医学書院，2026 年
「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版」，任和子・他 著，医学書院，2026 年

参考文献

「看護がみえる③ フィジカルアセスメント」，メディックメディア，2020 年
「呼吸音聴診ガイドブック」，山内豊明 著，医学書院，2018 年
「

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	基礎看護学	単位数	1 単位	立石　和子
科目名	臨床看護総論	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

健康障害を持つあらゆるライフサイクルの人々を理解し、健康上のニーズ、健康状態の経過、主要症状に応じた看護が理解できるようにする。また、看護場面における気づきや思考過程を学び、臨床における看護実践に必要な臨床判断の基礎的知識の習得につなげる。

授業目標

1　健康障害をもつ対象者と家族の特徴、臨床看護の場について理解する。
2　臨床判断のプロセスを理解する。
3　各ライフサイクルにおける健康の意味について理解する。
4　健康障害の経過からみた看護について理解する。
5　主要な症状をもつ対象者への看護を理解でする。
6　主要な治療・処置を受ける対象者への看護を理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1～3	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 ・臨床看護とは ・ライフサイクルからとらえた対象と家族のニード ・家族機能からとらえた対象と家族のニード ・生活と療養の場からとらえた対象と家族のニーズ	講義	
4	看護師の臨床判断のプロセス	講義	
5～6	健康状態の経過に基づく看護 ・健康の維持・増進を目指す看護 ・急性期にある患者の看護の特徴 ・回復期にある患者の看護の特徴 ・慢性期にある患者の看護の特徴 ・終末期にある患者の看護の特徴 ＊各期、事例を通してニーズを考える	講義 ディスカッション	
7	主要な症状を示す対象者への看護① ・呼吸障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義	
8	主要な症状を示す対象者への看護② ・循環障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義	
9	主要な症状を示す対象者への看護③ ・栄養・代謝障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義	
10	主要な症状を示す対象者への看護④ ・排泄障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義	
11	主要な症状を示す対象者への看護⑤ ・活動休息の障害に関連する症状を示す対象者への看護 ・認知・知覚障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義	
12	主要な症状を示す対象者への看護⑥	講義	

	・コーピング、安全や生態防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ・安楽に関連する症状を示す対象者への看護		
13	治療・処置を受ける対象者の看護① ・輸液療法　・化学療法　・放射線療法	講義	
14	治療・処置を受ける対象者の看護② ・手術療法　・集中治療	講義	
15	治療・処置を受ける対象者の看護③ ・創傷処置，創傷ケア　・身体侵襲を伴う検査・治療	講義	

受講上の注意

全ての看護学の土台となるため、自ら学ぶ姿勢をもち積極的に学ぶ。

評価方法

筆記テスト 70%　授業参加度 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 第8版」，香春知永・他 著，医学書院，2026年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	地域・在宅看護論	単位数	2 単位	入江　奈津恵
科目名	地域・在宅看護概論	時間数	45 時間　23 回	

科目概要

病院完結型から地域完結型の医療提供体制への転換が求められている現状を理解し、地域・在宅看護の基盤を養う。暮らしとは何かを考え、可能な限り住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための看護の役割と活動の場の多様性を理解する。

授業目標

1　人々の「暮らし」の拠点としての「地域」について考えることができる。
2　看護の対象者を日々の暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康との関係について考えることができる。
3　家族をひとつのシステムとしてとらえ、看護の対象として理解することができる。
4　「暮らしを支える看護」とはどのようなものかイメージすることができる。
5　地域・在宅看護が提供される様々な場を知り、看護師の役割を理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・暮らしと地域を理解するための考え方　システム理論	講義	
2	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・看護の対象	講義	
3	人々の暮らしと地域・在宅看護 ・暮らしとはなにか	講義 グループワーク	
4	人々が暮らす地域の理解と健康 ・地域の特性、多様性を理解する ・暮らしと地域、健康の関係を考える	講義 グループワーク	
5	私たちが生活する地域の理解① ・私たちの生活に必要な社会資源とはなにか	講義 グループワーク	
6	私たちが生活する地域の理解② ・学校周辺の地域を理解する（データ収集）①	講義 フィールドワーク	
7	私たちが生活する地域の理解② ・学校周辺の地域を理解する（データ収集）②	講義 フィールドワーク	
8	私たちが生活する地域の理解③ ・学校周辺の地域を理解する（地域社会資源マップ作成）	グループワーク	
9	私たちが生活する地域の理解④ ・博多区役所企画振興課へのインタビュー	フィールドワーク	

10	地域・在宅看護の対象① ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性	講義	
11	地域・在宅看護の対象② ・わが国における家族の現状とその変遷 ・看護の対象としての家族理解（1）	講義	
12	地域・在宅看護の対象③ ・看護の対象としての家族理解（2）	講義	
13	地域における暮らしを支える看護① ・暮らしを支える看護	講義 グループワーク	
14	地域における暮らしを支える看護② ・看護師に求められる態度・知識・姿勢	講義 グループワーク	
15	地域における暮らしを支える看護③ ・広がる看護の対象と提供方法	講義	
16	地域・在宅看護の対象④ ・家族が療養者になった場合の家族の機能	講義 グループワーク	
17	地域での暮らしにおけるリスクの理解 ・暮らしにおけるリスク②	講義 グループワーク	
18	地域での暮らしにおける災害対策 ・暮らしと災害	講義	
19	地域での暮らしにおける災害対策 ・地域で暮らす人々が行う災害時の備え ・災害時の地域・在宅看護の役割	講義	
20	地域・在宅看護実践の場① ・地域包括ケアシステム ・医療機関で提供される看護	講義	
21	地域・在宅看護実践の場② ・在宅看護と施設看護	講義	
22	地域・在宅看護実践の場③ ・その他のサービスの場で提供される看護	講義	
23	地域・在宅看護実践の場④ ・療養の場の移行時の看護、継続看護	講義 グループワーク DVD 視聴	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。
事前課題については授業開始前までに学習しておく。
グループワークには積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 70%　　レポート 30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第7版」，
河原加代子・他 著，医学書院，2026年

参考文献

「基礎からわかる地域・在宅看護論」，池西静江 著，照林社，2021年
「よくわかる在宅看護」，角田直枝 編，学研メディカル秀潤社，2020年

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	地域・在宅看護論	単位数	1 単位	入江　奈津恵
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	時間数	30 時間　15 回	

科目概要

暮らし（生活）と健康の両方の視点を持って、対象者を全人的にとらえながら看護の役割を理解する。法や制度、施策が地域で暮らし続けることをどのように支援しているのか理解する。

授業目標

1　地域におけるライフステージによる健康課題を知り、具体的な看護を考えることができる。
2　多職種が連携して地域に暮らす人々の生活を支えることの必要性が理解できる。
3　地域・在宅看護実践に関連する法制度を理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
		5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	ライフステージにおける健康課題と地域・在宅看護① ・地域におけるライフステージに応じた看護（1）	講義	
2	ライフステージにおける健康課題と地域・在宅看護① ・地域におけるライフステージに応じた看護（2）	講義 グループワーク	
3	ライフステージにおける健康課題と地域・在宅看護② ・疾病とライフステージ ・疾病や障害をもつ在宅療養者の理解	講義 グループワーク	
4	ライフステージにおける健康課題と地域・在宅看護③ ・家族とライフステージ ・地域における家族への看護	講義 グループワーク	
5	地域包括ケアシステムにおける多職種連携① ・地域・在宅看護における多職種連携の実際	講義 DVD 視聴	
6	地域包括ケアシステムにおける多職種連携② ・多職種との連携・協働のあり方（1）	講義 グループワーク	
7	地域包括ケアシステムにおける多職種連携③ ・多職種との連携・協働のあり方（2）	講義 グループワーク	
8	社会保険制度の基本① ・介護保険	講義	
9	社会保険制度の基本② ・医療保険 ・医療提供体制に関する法制度	講義	
10	社会保険制度の基本③ ・介護サービスの実際	講義	
11	訪問看護制度の理解① ・訪問看護の制度の変遷 ・訪問看護の対象と提供方法 ・訪問看護ステーションに関連する規程	講義	

12	訪問看護制度の理解② ・訪問看護の利用までの手順・費用 ・訪問看護サービスの提供（1）	講義 DVD 視聴	
13	訪問看護制度の理解③ ・訪問看護サービスの提供（2） ・ケアマネジメントと社会資源の活用	講義 DVD 視聴	
14	在宅療養者の権利の保障① ・地域保健や高齢者に関する法制度	講義	
15	在宅療養者の権利の保障② ・障害者・難病や権利保障に関する法制度	講義	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。
グループワークには積極的に参加すること。

評価方法

筆記テスト 100%

使用するテキスト

「系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第7版」,
河原加代子・他 著, 医学書院, 2026年

参考文献

「基礎からわかる地域・在宅看護論」, 池西静江 著, 照林社, 2021年
「よくわかる在宅看護」, 角田直枝 編, 学研メディカル秀潤社, 2020年

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	太田　真央
科目名	成人看護学概論Ⅰ	時間数	15 時間　8 回	平野　薫

科目概要

成人看護の対象を成長発達段階別に、身体的・精神的・社会的側面から捉える。現代の社会情勢を視野に入れながら成人の健康に及ぼす様々な要因や健康問題を考える。

授業目標

1　成人のライフサイクルにおける特徴や健康問題を理解できる。
2　成人期にある対象の健康に及ぼす要因について理解する。
3　成人の保健の動向と対策について理解する。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1.2	対象者の理解、対象者の生活 生涯発達の特徴、成人各期の特徴、 生活を営むこと、人生を辿る事、家族とのかかわり方	講義・GW	平野
3	成人保健の動向 成人保健の概念、成人保健の年次推移 成人の疾病構造の変化	講義	平野
4	健康をおびやかす要因（生活習慣と生活習慣病） 健康バランスの機能要素、ライフスタイルと問題、 予防対策、疾患との対策	講義	平野
5	健康生活をはぐくむ看護 ヘルスプロモーションと看護、健康増進のための環境づくり 地域社会・職場におけるヘルスプロモーションを促進する 看護	講義 GW	太田
6.7	生活の中で健康行動を生みはぐくむ看護 健康問題を持つ者と看護師の関係 集団における看護アプローチ、健康行動の促し方 健康行動が促進する看護アプローチ	講義	太田
8	健康生活を支援する環境つくり	講義	太田

受講上の注意

レポート課題は時間厳守で提出をお願いします。評価になります。

評価方法

筆記テスト 70%　　授業態度（レポート提出含む）30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学総論 第16版」，小松浩子・他 著，医学書院，2026年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	成人看護学	単位数	1 単位	平野　薫
科目名	成人看護学概論Ⅱ	時間数	15 時間　8 回	太田　真央

科目概要

成人期にある人とのその家族の特徴および健康問題と健康レベルに応じた援助方法及び成人看護の基盤となる諸理論や概念について学び、急性期・回復期（リハビリテーション看護）・慢性期・終末期の経過にある人や療養の場とその移行を支える援助を考察する能力を養う。

授業目標

1　成人期にある対象への健康促進・保持・増進するための看護について理解する。
2　あらゆる健康障害にある成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。
3　健康障害の病期および機能障害に基づく看護を理解する。
4　療養の場の移行支援や新たな治療法について説明することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護① ・健康の急激な破綻	講義	平野
2	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護② ・急性期にある人の看護	講義	平野
3	新たな治療法、先端医療と看護	講義	平野
4	生活機能障害がある人の生活とリハビリテーション	講義	太田
5	慢性病とともに生きる人を支える看護① 慢性病を持つ人の特徴と生活	講義	太田
6	慢性病とともに生きる人を支える看護② 慢性病の人を支える看護	講義	太田
7	人生の最期のときを支える看護	講義	太田
8	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	講義	太田

受講上の注意

評価方法

筆記テスト 80%　　授業態度（レポート提出含む）20%

使用するテキスト

「系統看護学講座 成人看護学総論 第16版」，小松浩子・他 著，医学書院，2026年

参考文献

なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後　期	講義担当者
教育内容	老年看護学	単位数	1 単位	木戸　信子
科目名	老年看護学概論 老年期を生きる高齢者の理解	時間数	15 時間　8 回	

科目概要

老年期にある対象と家族を理解し、加齢と疾病・健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を育成する。

W

1. 老年期の特徴と健康問題を理解する。
2. 高齢者ケアにおける看護の役割と機能を理解する。
3. 介護保険制度と地域包括支援システムを理解する

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
	○	2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
	○	3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
	○	4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1・2	老いのイメージ 加齢と老化	講義・GW	
3・4	高齢者へのアセスメント ・身体の加齢の支え変化とアセスメント	講義	
5	超高齢の発達段階とスピリチュアル 超高齢化社会の統計的輪郭 高齢社会における保健医療福祉の動向 1） 高齢者の健医療福祉のシステム 2）介護保険制度の目的と理念	演習	
5	高齢社会における保健医療福祉の動向 1）介護保険サービス	演習	
6	高齢社会における保健医療福祉の動向 2） 高齢者医療の仕組み 3） 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化	講義	
7・8	高齢者の権利擁護 1） 高齢者虐待 2） 身体拘束 3） 権利擁護のための制度 4） 成年後見制度 老年看護の成り立ち 1） 老年看護の役割 2） 老年看護の特徴 3） 老年看護における理論・概念の活用 高齢者を支える家族と地域の支援	講義	

受講上の注意

ディスカッション・グループワークは積極的に発言すること。
高齢者体験では、教員の指示に従うこと。
レポート提出期限を守ること。

評価方法

筆記テスト 80%　　授業態度・グループワークの参加状況等 20%

使用するテキスト
「系統看護学講座 老年看護学 第10版」，北川公子・他 著，医学書院，2026年 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第6版」，鳥羽研二・他 著，医学書院，2026年
参考文献
なし

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	精神看護学	単位数	1 単位	西村　美耶
科目名	精神看護学概論	時間数	15 時間　8 回	

科目概要

精神看護の対象は心身の健康・不健康を問わずあらゆる発達段階の人々であり、こころのケアは看護を実践する全領域に共通している。人間の精神機能の理解を基盤に、健全なこころの発達とそれに影響を及ぼす要因および精神の危機的状況について理解する。精神看護学の基本的な考え方を学び、こころの健康について理解を深める。精神看護を実践していく中で必要な法律、精神看護の歴史的変遷や現代の精神看護の基本的理念等について学びを深め、現代社会における精神保健、精神看護をとりまく諸問題特に地域移行の課題についても理解を深める。

授業目標

1　精神的健康の概念を理解し、その人らしく生きるための精神看護の目的と意義を理解することができる。
2　ライフサイクルや社会の動向における精神保健と危機状況を理解することができる。
3　精神保健福祉の歴史を踏まえ、精神に障害のある人がその人らしく生きるための地域生活に必要な社会制度を理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 生命の尊厳と人格を尊重し、看護の対象を全人的に理解する力を身につけている。
		2. 健康課題に対して、科学的根拠に基づく看護を実践できる基礎的能力を身につけている。
		3. 地域で暮らす人々の健康課題に関心を寄せ、様々な社会資源を活用し、対象の支援を考える基礎的能力を身につけている。
		4. 看護専門職として責任をもち、保健・医療・福祉の一員として協働できる力を身につけている。
	○	5. 誠実な態度で自己研鑽し続ける力を身につけている。

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	精神看護学の概論	講義	
2	精神の健康の概念①	講義	
3	精神の健康の概念②	講義	
4	社会のなかの精神障害① 精神保健医療福祉と法制度の歴史	講義	
5	社会のなかの精神障害② 精神保健福祉の現状と課題	講義	
6	心のはたらきと人格の形成① ・心のはたらき	講義	
7	心のはたらきと人格の形成② ・心のしくみと人格の発達	講義	
8	関係のなかの人間	講義	

受講上の注意

講義前には事前学習をしておくこと。

評価方法

筆記テスト 70%　　平常点（授業態度、提出物など）30%

使用するテキスト

「系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 第6版」,
武井麻子・他 著, 医学書院, 2026年

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	桑野　ゆかり
科目名	基礎看護学実習Ⅰ	時間数	45 時間	

DPとの関連		
	○	1. 多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
		2. 対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
		3. 医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4. 医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5. ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

実習計画

【実習目的】

病院・病棟の構造や機能を理解する。また、看護の対象と療養環境を理解し、コミュニケーションを通して看護学生としての基本的姿勢・態度を養う。

【実習目標】

1．病院の構造や機能を理解し、病院が果たす役割を学ぶ。
2．病棟の構造や療養環境を観察し、患者の生活環境がわかる。
3．病院で働く様々な職種を知り、多職種と連携・協働していることがわかる。
4．看護師の看護の実際を見学し、看護の役割を知る。
5．患者とのコミュニケーションを通して関係構築のための技術が実践できる。
6．看護者としての倫理的態度を学ぶことができる。

【実習内容】

1．病院オリエンテーション
　1）病院の概要説明
　2）看護部について
　3）医療安全の説明
　4）実習生としての注意事項

2．病院見学
　1）病院の各部署・病棟見学
　　①　外来見学
　　②　連携部署見学
　　③　病棟見学

3．病棟実習
　1）病棟環境・構造・設備見学
　2）看護体制・看護業務
　3）対象の療養環境
　4）看護活動の見学
　5）コミュニケション
　6）看護師の役割
　7）看護者としての倫理的態度

【実習スケジュール】

日　程	内　容
1 日目	病院オリエンテーション・病院見学 病棟オリエンテーション・病棟見学 受け持ち患者情報収集・コミュニケーション
2 日目	看護師のシャドーイング 療養環境調整 患者とのコミュニケーション
3 日目	
4 日目	
5 日目	

【評価方法】

評価表に基づき評価する

分野	専門分野	配当時期	1 年　後 期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	2 単位	佐藤　みゆき
科目名	基礎看護学実習Ⅱ	時間数	90 時間	

DPとの関連		
	○	1. 多様な場面での対象の生活と健康状態を総合的に理解し、その人らしさを尊重して看護を実践することができる。
	○	2. 対象の状態変化を的確に捉え、科学的根拠（EBM）に基づき、安全に判断することができる。
	○	3. 医療・介護・福祉の多職種と協働し、退院支援や地域移行支援を適切に調整することができる。
	○	4. 医療安全文化を理解し、危険予知やリスクアセスメントを踏まえて、安全に看護を提供することができる。
	○	5. ICT および医療 DX を適切に活用し、主体的に学び続け自己成長を継続することができる。

実習計画

【実習目的】

対象の基本的ﾆｰﾄﾞを理解し、看護援助を通して、対象の健康状態に適した日常生活援助技術を学ぶ

【実習目標】

1　対象に関心をもち対象の状態、環境に配慮したコミュニケーションが実践できる

2　対象のとの相互関係について振り返ることの重要性が理解できる。

3　対象の基本的ﾆｰﾄﾞを理解し入院生活や健康状態が日常生活に及ぼす影響について考える

4　対象に必要な日常生活援助を理解できる。

5　対象に必要な日常生活援助技術を原理・原則に基づいて安全・安楽に実施・評価できる。

6　チームの一員として主体的に行動できる。

7　看護者として必要な姿勢・態度を身につけることができる。

【実習内容】

・受け持ち患者を中心に、日々のケアを実践する。
・受け持ち患者の状況にあわせて、日常生活の援助技術を計画・実施・評価できる。

○本実習で実践可能な技術

コミュニケーション、感染防止の技術、環境調整とベッドメイキング、体位変換、食事介助、清潔・排泄の援助、フィジカルアセスメント、罨法、移送技術

【実習スケジュール】

日　程	内　容
1 日目	【臨地実習】病棟オリエンテーション 受け持ち患者の紹介 コミュニケーション シャドーイング カンファレンス：受け持ち患者の情報共有とかかわりを通しての気づき
2 日目	【臨地実習】 シャドーイング 環境整備・バイタルサイン測定見学 日常生活援助見学 カンファレンス：テーマカンファレンス
3 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア見学・実施 カンファレンス：テーマカンファレンス
4 日目	【学内実習】 患者情報の整理 日常生活援助技術の確認 カンファレンス：３日間の実習の学びと振り返り
5 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア カンファレンス：観察記録用紙発表
6 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア カンファレンス：中間評価 技術経験録確認
7 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア カンファレンス：プロセスレコード検討会
8 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア カンファレンス：テーマカンファレンス
9 日目	【臨地実習】 受け持ち患者の日常生活ケア カンファレンス：最終評価 技術経験録確認
10 日目	【学内実習】 経験した看護のまとめ 入院中の生活から退院後の生活支援について考える 記録の整理・まとめ・提出

【評価方法】

評価表に基づき、ルーブリック評価内容を参照し評価する。